

わたるのお母さんは、幼い三人の子どもを連れて、実家であるよしおのおじいさんの家に戻ってきました。よしおも、その日、すぐ近所のおじいさんの家にいました。

「お父さん。お世話になりました、幸せになりますと言って、この家を飛び出して行ったのに、帰ってきてしまいました。本当に、すみません。」と、おばさんは、わたるとまみときみちゃんを、横にちゃんと座らせて、深々と頭を下げました。

明治生まれの瓦職人のおじいさんも、娘と孫の正面にきちんと正座しなおして、

「おまえたちの家じゃ。何の遠慮もせんていい。おまえたちの家じゃ。」と、一言だけ、天井を見上げながら言いました。

それを、よしおは、よなりの部屋からずっと見ていたのです。

